

- ◆ 新年のごあいさつ
- ◆ 新規就農者の定着に向けて ～伊豆大島農業青年会の設立支援～
- ◆ 「あめりか芋」で地域おこし ～島で残ってきたサツマイモのこれから～
- ◆ カンキツ生産振興への取組 ～レモン新規栽培者への支援～
- ◆ 八丈島口ベの担い手育成 ～導入から100年、国内最大産地の今後～
- ◆ 花と緑の新しい取組を支援 ～花と緑の競争力強化支援事業～
- ◆ 大島メモ：八重咲新品種で生産振興
- ◆ 神津島メモ：レザーファンをみんなで守れ！
- ◆ 三宅メモ：アシタバ栽培における早期収益化の支援
- ◆ 青ヶ島メモ：青ヶ島レモンの生産振興
- ◆ お知らせ



# 新年のごあいさつ



東京都島しょ農林水産総合センター

所長 中野 卓

皆様、新年明けましておめでとうございます。

2 昨年、引き続き新型コロナウイルス感染症拡大、ロシアによるウクライナ侵攻により、世界の社会経済が大きな影響を受け、日本では円安が進行し、物価が上昇するなどしました。一方で、島しょ地域の皆様の生産の中心である花卉・観葉鉢物類の価格は、安定・上昇傾向であったため、ホッとしているところです。

令和5年は卯年。ウサギのように東京の島しょ地域が飛躍、向上する、希望に満ちた1年になることを祈念いたします。

## 東京都農林・漁業振興対策審議会答申

東京都では、社会経済の大きな変革期において、持続可能な東京農業をどう展開すべきかを専門家の方々に諮問し、11月4日に答申をいただきました。この答申を受け、行政計画である「農業振興プラン」を今年度末までに作成して、令和5年度から新たな時代にマッチした施策を展開する予定です。

都が取組むべきとして提言を受けた、主なものをご紹介します。詳細はURLを参照ください。

<<https://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.lg.jp/plan/nourin/toushin.pdf>>

- 1 担い手の確保・育成
  - (1)認定農業者等への支援
  - (2)親元就農者の就農・定着支援
  - (3)農外からの新規就農・定着支援
  - (4)女性農業者への支援
  - (5)農業改良普及指導体制の強化
  - (6)新たな支え手の確保・育成

## 2 稼ぐ農業経営の展開

- (1)東京産農産物の高付加価値化
- (2)現場への技術の普及と農業者の意識改革

## 3 農地の保全・活用

- (1)遊休農地の再生・低利用農地の活用等
- (2)販売に前向きな自給農家の支援による農地活用

## 4 持続可能な農業生産と地産地消の推進

- (1)環境に配慮した農業の推進
- (2)農産物の地産地消の推進

## 5 地域の特色を活かした農業の推進

### 各島での重点取組について

新年を迎えて、島しょセンターの職員一同、改めて島の皆様に寄り添って普及事業を展開していく所存です。長期的かつ全島共通の重要課題である、認定農業者の育成や経営指導については勿論のこと、大島では皆様から期待されるブバルディア育成新品種の試作や安定生産、流通、新島では特産あめりか芋の苗の品質向上や増産、三宅島、八丈島では柑橘類の安定生産やブランド化などの課題改善に向けた講習、実技指導、現地検討、出荷技術改善、組織活動支援などに特に力を入れて実施してまいります。

こうした取組をベースに、4月以降は新たな施策も取り入れていくことを想定しています。

### 結びに

皆様が農業経営を取り巻く様々な変化に対応していくため、今年も行政、研究機関としっかり連携して普及活動に取組んでまいります。

1年間の天候の安定、皆様のご健勝、関係団体・島しょ地域の益々の発展を祈念して、新年のご挨拶といたします。

大島事業所  
普及指導センター  
(大島班)

## 新規就農者の定着に向けて

### ～伊豆大島農業青年会の設立支援～

大島町では、新規就農者の確保・育成のため、平成27年度から新規就農者支援研修センター（以下、「みらい農園」）を運営しています。研修生は島内外の出身で、大島町の特産作物であるブバルディアをはじめとする切り花等を中心に、2年間の研修を行います。また、研修生は先駆的農業者を講師とし、栽培管理や出荷調整等の技術指導を受けます。普及指導センターでは、研修生に対して、島内の先駆的農家の見学や基礎知識習得のための講座開催、就農計画の作成指導等を行っています。今回はみらい農園の修了生の就農後の取組を紹介します。

#### 伊豆大島農業青年会の設立

現在、みらい農園の修了生は6人で、ブバルディアやアシタバ等を栽培していますが、就農直後は、経営が不安定なこと等についての相談が寄せられました。そこで普及指導センターでは、みらい農園修了後も新規就農者が定期的に集まり、情報共有や勉強会を開催するための団体の設立を提案したところ、令和3年7月に、修了生を中心として「伊豆大島青年会」（以下、青年会）が設立されました。

令和4年5月には総会を開催し、活動方針や活動内容について検討しました。この中で四半期に1度程度定期的に集まり、生産・販売状況や、困っていることなどを共有する場を持つことが決まりました。

また、栽培技術や経営に応じた事業の利用等、新規就農者が抱える疑問や相談に対応できるよう、町役場、支庁及び普及指導センター職員も話し合いの場に参加することにしました。

併せて、継続的に栽培技術を習得していきたいという要望もあったため、普及指導センターでは勉強会等を開催することになりました。

#### 伊豆大島農業青年会への支援

普及指導センターでは、夏期のアシタバ出荷量向上のための遮光資材の検討や連作ほ場における土壌消毒方法の勉強会等を開催してきました（写真1）。



写真1 土壌消毒の実習(令和3年11月)

また、青年会会員の圃場での実習や、巡回指導でブバルディアやアシタバ等に多く発生が見られた病害虫の防除について勉強会を行いました（写真2）。今後は、次年度の営農計画の作成の際に1年の振り返りを促し、適切なフィードバックが行えるよう支援していく予定です。



写真2 青年会の勉強会(令和4年7月)

#### 今後の取組

修了生達は就農後に、労働力の確保等の新たな課題が見えてきています。普及指導センターは、今後も個々の修了生や青年会とよく話し合い、関係機関と連携して支援していきます。



大島事業所  
普及指導センター  
(新島班)

## 「あめりか芋」で地域おこし ～島で残ってきたサツマイモのこれから～

### 新島村の表皮の白いサツマイモ

新島村の特産品のひとつに表皮の白いサツマイモがあります。今回はその歴史と地域おこしの取り組みを紹介します。

新島村で栽培されている「七福」という品種のサツマイモは、明治時代にアメリカから日本に導入されたと言われています。このサツマイモは新島村の砂が多い土壌でも良く育ち、貴重な食糧として地域を支えてきました。

地域では品種名の「七福」より、来歴をもとにした呼び名の「あめりか芋」と自然に呼ぶようになりました。現在でも新島村では「七福」より「あめりか芋」の名称で知られています。

### 生産拡大に向けた苗の確保

平成24年に、新島の酒造会社があめりか芋の焼酎を復活させようと、地元農家が生産した芋を原料として購入し、焼酎の製造を開始しました。それを機会に、生産者はあめりか芋の作付面積を増やし始めました。

その過程で普及指導センターは「品質の良い苗の確保」への取り組みなどを行ってきました。

苗については、種イモの大きさが収量に影響することを考慮し、一定以上の重さがある種イモを使うよう指導を行い、現在では苗の品質を向上させる方法として定着してきました。

また、令和3年度からあめりか芋生産者の有志が、メリクロン苗から挿し苗を増殖する取り組みを始めました。初年度はメリクロン苗1株から採取できる挿し苗の本数が10～40本と大きなばらつきがありました。普及指導センターは、育苗管理や苗床中の病害虫防除などを指導し、技術の平準化を図っています。最近では他の生産者からも「自分もメリクロン苗を増殖を行いたい」という問い合わせも増えてきており、関心が高まっている技術です。



写真1 収穫されたあめりか芋

### あめりか芋の加工品

収穫された芋は、焼酎の原料用としての出荷のほか、直売などでも販売されます。また、割れや深い傷などで規格外となった芋を、村内の農業者がジャムやインスタントスープの素、ペースト（冷凍品）や菓子の原料として加工・販売しており、島内外で好評です。

普及指導センターは加工品製造販売、加工品を使ったレシピ開発や、新しい出荷先の開拓支援を行っています。



写真2 あめりか芋の加工品

### あめりか芋の振興から地域の振興へ

現在、新島村農業協同組合は、「あめりか芋の買い取り事業」を行い、生産拡大につなげる取り組みを行っています。普及指導センターは農業者及び関係機関とこれらの取り組みを進め、地域の振興に繋げていきます。

三宅事業所  
普及指導センター

## カンキツ生産振興への取組

### ～レモン新規栽培者への支援～

三宅村ではカンキツ類の栽培振興を進めており、令和3年3月に「三宅島カンキツ研究会」を設立しました。同年7月に、村の今後のカンキツ類の生産振興の方向性や進め方について検討が行われました。普及指導センターからは、カンキツ類の品種特性や今後の消費動向について、情報を提供しました。その結果、研究会は需要の見通しや栽培技術の難易、販売量の確保などを考慮して、レモン3品種「ユーレカ」「リスボン」「ピラフランカ」を中心に栽培に取り組むことになりました。

#### レモン定植予定圃場の巡回

村はレモンの新規改植を希望する生産者に対して、苗木の購入補助を行うこととしました。普及指導センターは村の担当職員と共に会員の栽培予定地を巡回し、圃場の面積や傾斜、日当たり、風当り、水源等を踏まえた適地評価を行いました(写真1)。さらに、農家の経営状況や労働環境も勘案し、必要な防風対策や適正な植栽本数などを提案しました。



写真1 レモン定植予定圃場の巡回

#### レモンの栽培支援

令和4年3月、村から会員に約330本の1年生の苗木が配布されました。これらの苗を会員が円滑に定植できるように、普及指導センターは講習会において、定植方法を実技指導するとともに、早期収量確保のための計画密植栽培法

などを説明しました(写真2)。また、潮風害対策を十分に講じず露地に苗木を定植すると生育不良などが懸念されるため、10号ポットへ鉢上げして養生する方法も併せて指導しました。



写真2 定植講習会の様子

定植した苗木の防風対策として、三宅事業所の令和3年度試験成果「カンキツ栽培における直管パイプを用いた簡易防風ユニットの防風効果」を参考に、会員の新植圃場に防風ユニットの設置指導を行いました(写真3)。その結果、強風被害はみられず、苗木は順調に生育しています。



写真3 防風ユニットの設置状況

#### 今後の取組

レモンの安定生産に向けて、研究会の定期的開催を支援するとともに、時期別管理のポイントについて随時情報提供し、講習会を通じて技術の向上を図っていきます。特に潮風害対策は、試験研究と連携しながら、今後も効果的な対策を検討します。また、三宅村と連携し、販売戦略に関する検討も行っていきます。



八丈事業所  
普及指導センター

# 八丈島ロベの担い手育成

～導入から100年、国内最大産地の今後～

大正10年（1921年）に八丈島に初めて「フェニックス・ロベレニー」（通称「ロベ」）が導入されてから100年が経ちました。八丈島の温暖多湿な気候に合ったため栽培は本格的に進み、現在、八丈島は国内最大の生産量を誇っています。ロベは八丈島における最大の基幹作物として、長年に亘り島の経済を支えています。

### 担い手の確保・育成に向けた取組

歴史のあるロベ生産ですが、近年は担い手の高齢化などによる農家数の減少に伴い、生産量が低迷傾向にあります（図）。一方で、近年は島の内外から新規就農を目指す人も増えています。普及指導センターは、町の施設である農業担い手育成研修センターを拠点に、担い手の確保・育成に向けた支援を重点的に行ってきました。

研修生を含む新規就農希望者を対象とした座学講習や、個別の栽培技術指導、ロベ共撰共販出荷組合を通じた情報提供などを継続して実施してきました。こうした取組により、ロベを生産する新規就農者の定着は進んできています（表）。

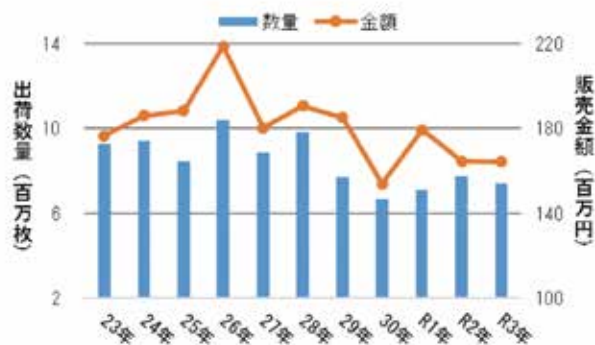


図 ロベ出荷数量、販売金額の推移 (JA共撰共販出荷)

表 ロベ新規就農者数(過去5年間)

年 度	H30	R 1	R 2	R 3	R 4
就農者数	3	1	2	2	2

### コロナ禍における普及活動の工夫

コロナ禍により、それまで実施されていた出荷組合定例会など会合の延期が続き、生産者同士の情報交換や交流の機会が大幅に減りました。ロベ共撰共販出荷組合員は261名（令和4年3月末現在）と大人数であるため、全組合員が一堂に会する講習会などの実施は難しい状況が続いています。

普及指導センターはJAと連携し、会場と日時を分散して栽培技術講習会を開催し、多くの生産者の技術向上を図りました。また、病害虫防除については資料配布に代える、個別の栽培指導については感染対策に留意するといった配慮を行いながら絶え間なく指導を続けてきました（写真）。



写真 圃場における個別の栽培指導

### 今後の展開

八丈島で新規就農を目指す人は、島内出身者だけでなく島外や農外からの希望者も多く、どなたも農業生産者になる強い意欲と覚悟を持っています。普及指導センターは、新規就農希望者がロベに代表される八丈島農業の担い手の主力となるよう、栽培技術向上、経営安定に向けた指導・支援を継続して行い、国内最大のロベ産地を一層発展させる普及活動に取り組んでいきます。

農業振興課  
園芸緑化担当

# 花と緑の新しい取組を支援

## ～花と緑の競争力強化支援事業～

新型コロナウイルスの感染拡大は、人々の生活様式を大きく変えました。

花き・植木分野では業務需要が落ち込む一方、巣ごもり需要が増え、切花や小型の鉢物等ホームユースが好調でした。同時に、地域社会・環境に配慮した商品への認識が高まっており、花き・植木もこれまでと異なる生産・販売が求められるようになっていきます。

東京都では、社会情勢の大きな変化をチャンスと捉え、新しい生活様式・環境配慮・地域貢献などの新たな視点で新しいビジネスにつなげる取組を支援することにより、都内の花き・植木生産者団体の事業展開促進や競争力強化を目的とする「花と緑の競争力強化支援事業」を令和4年度から開始しました。

### 「花と緑の競争力強化支援事業」の概要

#### (1) 支援対象となる取組の一例

本事業で対象となる取組の例をご紹介します。取組内容検討の参考としてください。

- ①“新しい生活様式”…ホームユースでの需要が高まっているサイズ・種類の鉢物、切葉、香りを楽しむ品目・品種等の生産出荷に新しく挑戦する取組



写真1 ミニブーケ、切葉アレンジ

- ②“環境配慮”…観葉植物を活用した暑熱対策や、脱炭素につながる資材を活用した生産出荷への挑戦など、環境配慮を前面に押し出した事業展開を目指す取組



写真2 動かせる緑陰ベンチへの活用

- ③“地域貢献”…地域の公園などで花や緑の植栽を行う自治体や団体との新たな連携により、継続的な花壇苗の出荷販売を目指す取組



写真3 公園花壇への花苗供給

#### (2) 支援対象団体(事業実施主体)

都内の農地で花きあるいは植木の生産出荷を行う団体・グループ（任意の都内生産者グループを含みます。）とします。

#### (3) 補助率等

補助率は、補助対象経費の2分の1以内です。（補助金額50万円～500万円（総事業費で100万円～1,000万円））

補助対象とする取組は、審査会を経て決定します。

#### (4) 補助対象等

- ①経常的な取組、単純更新や維持管理経費は補助対象となりません。  
②種苗購入は可能ですが、例えば、本事業で購入したプラグ苗を生育させ販売し収入を得てはならない等、一部制約があります。  
③事業目的達成のため必要な調査等に要する旅費については、事業実施主体の構成員に係るものも必要最低限の範囲で補助対象とします。

### 新しい発想でのご活用を！

加速する社会情勢の変化に柔軟に対応できる花き・植木生産を将来的に展開していくためにも、ぜひ本事業をご活用ください。詳しくは、下記担当宛てあるいは地域の普及指導センターまでお問合せください。

【事業担当】東京都産業労働局農林水産部  
農業振興課園芸緑化担当(電話：03-5320-4832)

## 大島メモ

### 八重咲新品種で生産振興

大島は、全国有数のブバルディアの産地です。農林総合研究センターでは地元生産者などと協力して、新品種を開発し、令和3年9月に新たに3品種が出願公表されました(写真)。これらは星形の華やかな花のイメージと花が八重であることから、「東京ダブルスター」シリーズと命名されました。



「東京ダブルスター」シリーズ3品種

現在大島では、第1期3品種に続きこれら新品種の試作が始まっています。

今後は新品種の生産性や市場性の把握に努め、導入・定着を推進していきます。

## 神津島メモ

### レザーファンをみんなで守れ!

神津島におけるレザーファン栽培の課題のひとつに、生産者の高齢化が挙げられます。労力不足により病害虫防除が徹底されず、出荷枚数の減少が顕著になってきました。

そこで、普及指導センターは、生産者の要望をもとに、検討会などで薬剤散布の見直しや部会全体で防除する体制の提案、防除暦の見直しを行ってきました。引き続き農協・村役場など関係機関と連携して、安定生産に繋げる活動を支援していきます。



検討会で防除効果を確認

## 三宅島メモ

### アシタバ栽培における早期収益化の支援

三宅島ではアシタバの生産者から、早期に収益を確保する技術が求められていました。そこで、普及指導センターでは、三宅事業所の試験研究成果を参考に早期収益化技術の実証展示を行いました。10月にアシタバを播種し、保温資材「ユーラックカンキ4号」を用いてトンネル被覆を行う方法です。この方法により初期生育が促進され、収穫開始時期が約1カ月前進することが



アシタバの保温育苗

確認されました。今後は島内のアシタバ生産者に対して、広くこの技術の普及を図っていきます。

## 青ヶ島メモ

### 青ヶ島レモンの生産振興

青ヶ島では近年、新たな品目としてレモンの栽培に取り組んでいます。11月頃からは青い果実、収穫後半にあたる3月にかけては黄色く熟した果実も収穫・出荷しています。生産量は少ないものの、青ヶ島の気候条件とも合い、品質の良いものが収穫されています。普及指導センターでは、新たに約100本のレモンの苗木を定植するための技術支援を行いました。



定植後のレモン苗木

良品安定生産を目指して、今後も剪定講習会の開催や病害虫防除指導などの活動を行っていきます。

## お知らせ

### ◎第71回関東東海花の展覧会

日時：令和5年1月27日(金)～29日(日)

会場：サンシャインシティ文化会館2階展示ホールD(豊島区東池袋3-1-4)

### ●表紙写真：青ヶ島の青レモン

### ◆お問い合わせは下記まで・・・

島しょ農林水産総合センター振興企画室 ☎03-3454-1953  
島しょ農林水産総合センター大島事業所普及指導センター ☎04992-2-1123  
島しょ農林水産総合センター大島事業所普及指導センター新島分室 ☎04992-5-0281  
島しょ農林水産総合センター三宅事業所普及指導センター ☎04994-6-1414  
島しょ農林水産総合センター八丈事業所普及指導センター ☎04994-2-3158  
農業振興事務所振興課技術総合調整担当 ☎042-548-5053

とうきょう普及インフォメーション島しょ版

印刷物規格表第1類  
登録番号(3)5

令和5年1月1日発行

印刷・発行 東京都農業振興事務所振興課  
立川市錦町3-12-11

☎ 042-548-5053

FAX 042-548-4871

印刷 株式会社 高尾印刷

☎ 042-661-1507



古紙配合率80%再生紙を使用しています

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。